

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	単位数・時間数	2 単位 90 時間	開講年次	2～3 学年
担当講師名	専任教員、実習指導者		実習場所	二戸・一戸・軽米・久慈病院	
目的	近い将来、死を免れない対象及び家族の苦痛の緩和と QOL 実現のための援助を学ぶ				
到達目標	1. 終末期にある対象の特徴を身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面から全人的に理解できる 2. 対象の苦痛の緩和と QOL 維持のための援助方法を理解し、実践できる 3. 終末期にある対象と家族のつながりを理解し、支援できる 4. 終末期における保健医療福祉チームの中での看護師の役割が理解できる 5. 終末期にある患者や家族への看護を通し自己の死生観を深めることがきでる				
実習内容・方法	1. 受けもち患者の全人的苦痛について理解する 2. 病態から回復の生体機能と予後や今後の病状進行の予測をする 3. 受け持ち患者の治療の目的・方針を知る 4. 苦痛緩和のための援助を行う 1) 苦痛の情報収集 2) 薬物療法による効果と副作用の観察とアセスメント 3) 使用している薬剤の管理方法について見学 4) 苦痛緩和のための援助の実施（安楽な体位、マッサージ、時間の共有など） 5. 苦痛を最小限にした安全な日常生活援助の実施をする 6. 受け持ち患者とその家族とコミュニケーションをしたり、時間を共有し、理論を用いて心理過程を理解することで、不安や恐怖、希望を受け止めるための援助を行う。 7. 苦痛の少ないバイタルサイン測定や観察の方法を考え実践する。 8. 危篤状態から死を迎えた対象と家族への援助を行う 9. カンファレンスを行い、死生観について考えを深め、レポートする。				
備考	詳細は、実習要綱を参照する				
成績評価方法	実習評価表に基づき評価する				